

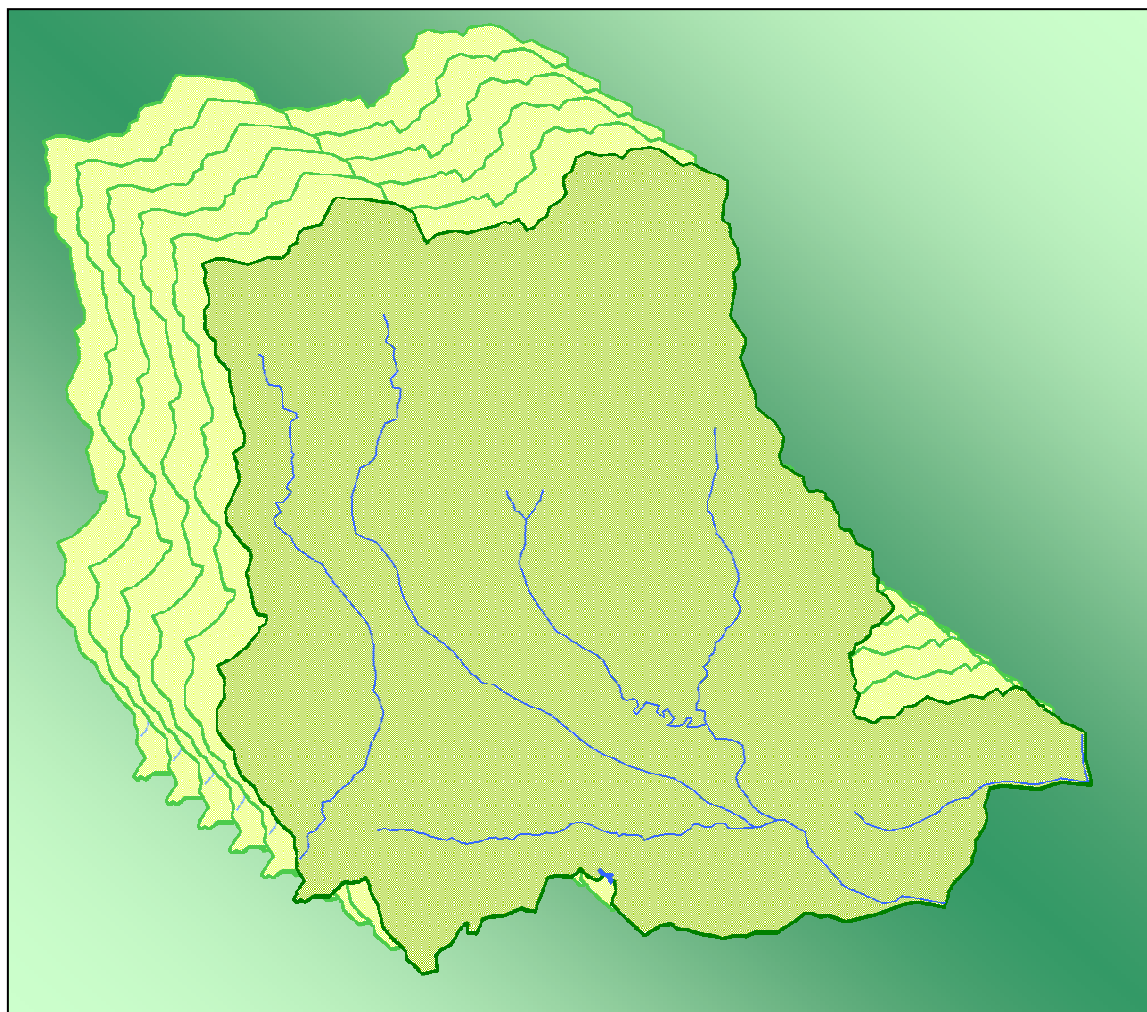
秦野市公共施設再配置計画

公共施設の再配置に関する方針(2011-2050)

“未来につなぐ市民力と職員力のたすき”

第1期基本計画(2011-2020)

前期実行プラン(2011-2015)



平成23年(2011年)3月

秦野市

計画の策定にあたって

本市の公共施設は、人口が急増した昭和 40 年から 50 年代にかけ、一斉に整備されてきました。近い将来、これらの施設は一斉に老朽化し、更新の時期を迎えます。しかし、それと重ね合わせるかのように高齢化と人口減少は進み、公共施設の維持費の増額が見込まれる一方で、税収は減少する恐れがあるという状況にあります。

こうした中、本市は、一昨年に「秦野市公共施設白書」を、また昨年には「秦野市公共施設の再配置に関する方針“未来につなぐ市民力と職員力のたすき”」を策定、公表しましたが、その内容は、市内外から大きな注目を集めました。

その理由に挙げられるのは、有識者にアドバイスをいただきながらも、職員が手づくりで作業を進め、将来にわたり維持できる施設量を試算し、それに基づく方針を立てるといっておそらく全国では例のない取組みであったこと。そして、その検討過程も含め、すべての情報を公開してきたことにあると思います。

人は、自分に都合の悪いことは隠したくなるものです。それは行政も例外ではありません。公開した情報の中には、行政側にとって、また、公共施設の利用者側の皆様にとっても都合の悪い情報もあると思われるかもしれません。それでも、様々な情報の公開を徹底してきた理由は、公共施設を利用する人も利用しない人も同じテーブルについて、公共施設の更新問題と再配置への取組みについて議論していただきたかったからです。

その結果、これまでに多くの皆様に再配置の必要性を理解していただけたと思っています。また、同時にたくさんのご意見もいただくことができました。公共施設を支える納税者としての意見、公共施設の利用者としての意見、その一つひとつが大切な意見であると思っています。

しかしもう一つ、今は声を発せない大切な市民のことも考えなければなりません。それは、まだ小さく、また生まれていないかもしれない将来の市民です。私たちの大切なふるさとの未来を託す市民に、大変な重荷を背負わせてしまうことは、絶対にあってはならないことであるとの思いから、「秦野市公共施設再配置計画第 1 期基本計画」を定め、「未来につなぐたすき」リレーをスタートすることといたしました。

もとより、全国に先駆けた取組みであり、今後、市民の皆様の期待が高まると同時に、驚きやとまどいが起きるかもしれませんが、本市が抱える喫緊の重要課題です。今後はこの基本計画を基調に、「市民力」、「地域力」との連携により計画を着実に推進していきたいと考えていますので、市民の皆様、関係団体の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本基本計画の策定に当たり、精力的に御審議をいただきました秦野市公共施設再配置計画(仮称)検討委員会をはじめ、貴重な御意見や御提案を賜りました多くの皆様に心からお礼を申し上げます。

平成 23(2011)年 3 月

秦野市長 古谷 義幸

方針の策定にあたって

— 昨年の秋以降、景気の低迷は続き、国においては、平成 21 年度の国債発行額が過去最高を記録するなど、私たちの将来の暮らしに不安が募っています。また、本市も法人市民税が大幅に減少するなど、今までにも増して厳しい行財政運営を行わなければならない状態が続いています。

このような状況の中、税の使い方の決定に対しては、納税者のより一層厳しい視線が注がれ、国による事業仕分けへの注目度にも見られるように、その使われ方を決めるに当たっては、十分な情報の公開と説明責任を果たすことが強く求められています。

本市は、昨年 10 月、公共施設の全体像を明らかにするとともに、公共施設の置かれている現状と課題に関するデータを市民の皆様と共有するため、「秦野市公共施設白書」を公表しました。それ以来、市内外の各方面から様々な反応をいただいておりますが、あらためて公共施設というものは、市民生活と深く結びついているということを実感しました。

しかし、いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる公共施設は、経済成長と人口増加を背景として、全国で増加を続けてきました。このことは、本市も例外ではありませんが、あらためて言うまでもなく、高齢化社会の到来とそれに伴い大きな経済成長が見込めなくなる現状では、これらの公共施設を現在の姿のままで維持し続けることは、今後の市政運営にとって大きな負担となり、真に必要な行政サービスにまで、悪影響を及ぼすであろうことも事実です。

この現状に目をつぶり、現在の市民だけに今までと同じサービスを提供し続け、結論を先送りにすることは、次世代の市民に多くの負担を押し付けることとなります。

しかしながら、今ある公共施設の数量だけに着目し、単にそれを減らせばいいというものではありません。公共施設にはそれぞれ果たしてきた役割があり、その中には、今後も維持し続けなければならない機能が多いことも事実です。現在の市民へのサービス低下を最小限に抑え、将来の市民にもできるだけ多くの公共施設サービスを楽しんでもらう「公共施設の再配置」を実現するためには、多くの知恵と工夫が必要になります。

そこで、私は、この方針に「未来につなぐ市民力と職員力のたすき」という副題を付けましたが、「たすき」という言葉には二つの思いを込めました。一つは、駅伝で使われるたすき、そしてもう一つは、たすき掛けのたすきです。

前者に込めた思いの意味は、私は、今縁あって市政のかじ取り役としてのたすきを受け継いでいます。このたすきを次の走者に引き渡すことは、私の最も大切な使命であり、そのためには、どんなに苦しくても、歯を食いしばって耐えなければならないこともあると思っています。まさに「公共施設の再配置」を進めることは、最大の難所を走り抜けるといっても過言ではなく、これを乗り切り、未来にしっかりとたすきをつながなければならないという覚悟で望むということです。

そして後者に込めた思いの意味は、公共施設のあり方の根本的な見直しを行う「公

共施設の再配置」は、公共施設を利用し、支えている市民や多くの知恵と力を持つ法人が発揮する「市民力」と、本市の職員一人ひとりが持つ「職員力」、この二つの力がまさにたすきがけのように交差し合い、お互いに力を発揮し合っこそ実現できると考えていることです。

「公共施設の再配置」が進むことは、施設の利用者の皆様にとっては、万事が今までどおりとはいかなくなり、少なからず御不便や御心配をおかけする場合もあるかと思ひます。

しかし、「足るを知る」という仏教の教えがあります。「人間の欲にはきりがない。欲望を満たすことを考え続けるよりも、あるがままを受け入れて、それに素直に感謝することに本当の幸せがあるのではないか」という意味ですが、公共施設を工夫しながら使っていくことにより、将来にわたり必要となる施設サービスを持続可能なサービスとするためには、まさにこの気持ちを持つことが必要なのではないのでしょうか。

ここに、「秦野市公共施設の再配置に関する方針“未来につなぐ市民力と職員力のたすき”」を定めます。今後、この方針に沿って、多くの「市民力」と「職員力」にも支えていただきながら、「公共施設の再配置」を進めていきたいと考えていますので、ぜひ御理解をお願いいたします。

平成 22(2010)年 10 月

秦野市長 古谷 義幸

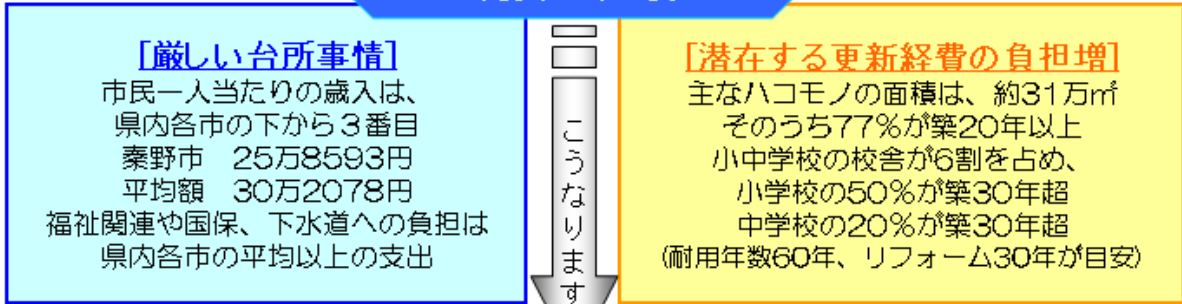
目 次

まえがき	
計画の策定にあたって	1
方針の策定にあたって	2
公共施設再配置のフロー	6
第1章 ハコモノを直す [公共施設の再配置について]	9
1 「公共施設の再配置」とは	10
2 何を再配置するのか	11
3 なぜ再配置が必要なのか	13
第2章 ハコモノを視る [公共施設の現状と課題]	21
1 人も建物も年をとる [老朽化の進行と一斉更新時期の到来]	22
2 サービスとは何か [公設公営の弊害と縦割りの管理]	32
3 「ハコモノ」主義は当たり前 [ハコモノ主義の弊害]	36
4 税金は安くない [受益者負担の適正化]	43
5 ハコモノもメタボになる [対症療法的な維持補修]	50
6 足元を見れば [インフラの老朽化]	53
7 今までは [管理運営費等の推移]	57
第3章 ハコモノを描く [公共施設の再配置に関する方針]	63
方針1 基本方針	64
方針2 施設更新の優先度	64
方針3 数値目標	68
方針4 再配置の視点	74
視点1 「備えあればうれいなし」	75
視点2 「三人寄れば文殊の知恵」	76
視点3 「三方一両得」	77
視点4 「無い袖は振れぬ」	79
視点5 「転ばぬ先の杖」	82
第4章 ハコモノを練る [公共施設再配置計画]	87
第1節 計画の概要	88
Ⅰ 構造及び期間	88
Ⅱ 計画のコンセプトと位置付け	89
Ⅲ 方針に基づく将来イメージ	92

1	学校を中心としたコミュニティ形成の基本パターン	92
2	将来想定されるコミュニティ拠点のエリア	94
3	エリアごとのコミュニティ拠点形成イメージ	96
第2節	第1期基本計画及び前期実行プラン	101
I	第1期基本計画の構成	101
II	シンボル事業の概要	102
III	第1期基本計画の効果と目標値との比較	106
	本計画の効果額と行財政改革プラン効果額の関係	107
IV	総括的事項の基本計画及び実行プラン	108
V	施設別の基本計画及び実行プラン	113
	計画対象施設	113
	基本計画及び実行プランの見方	114
1	学校教育施設	115
2	生涯学習施設	123
3	庁舎等	153
4	福祉施設	164
5	観光産業振興施設	180
6	公営住宅	184
7	公園・緑地等	186
8	低・未利用地	189
附属資料		191
I	方針等の策定体制及び経過	192
1	策定体制	192
2	策定経過	193
II	秦野市公共施設再配置計画（仮称）検討委員会	195
1	委員名簿	195
2	検討委員会開催経過	196
3	秦野市公共施設再配置計画策定にあたっての提言	203
4	秦野市公共施設再配置計画（仮称）検討委員会設置要綱	205
III	方針等の内容に対する市民の意見	208
1	方針案に対するパブリック・コメント手続きの結果	208
2	方針案に対する地区別市政懇談会の結果	216
3	計画案に対するパブリック・コメント手続きの結果	221

[公共施設再配置のフロー] なぜ「公共施設の再配置」が必要なのか

秦野市の今の姿

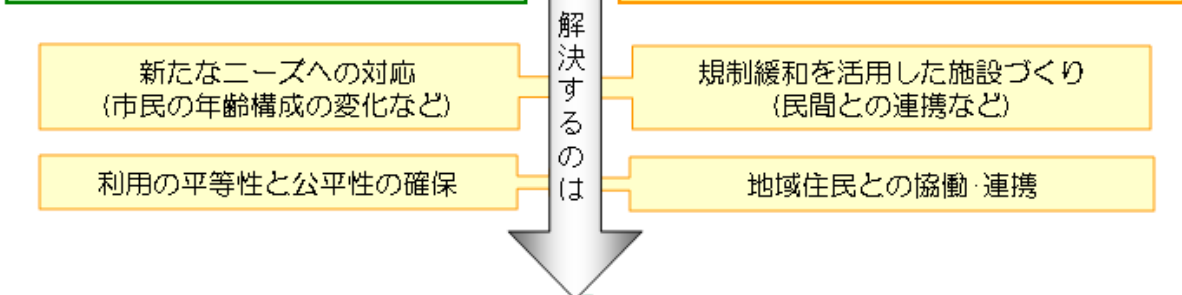
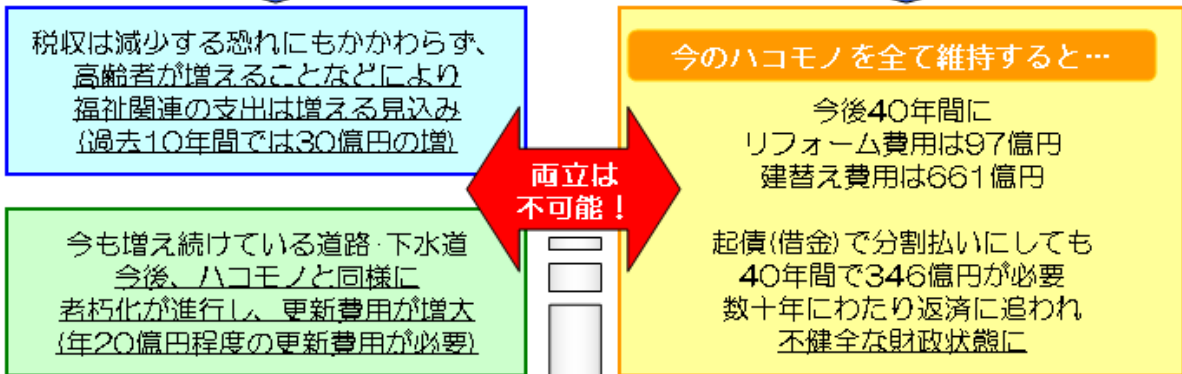


秦野市の将来の姿



主な納税者である生産年齢人口は昭和60年と同じに戻ります
この頃のハコモノは21万㎡で現在の3分の2
財政規模も現在の3分の2でした。

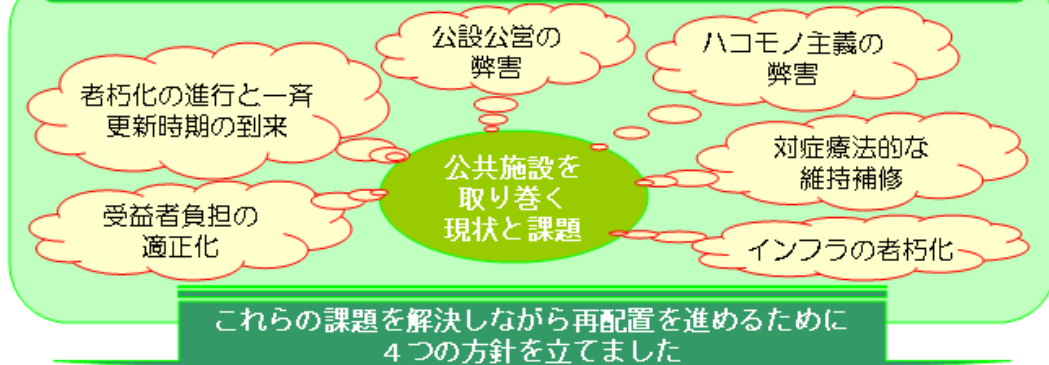
さらに…



公共施設の再配置 & 行財政改革

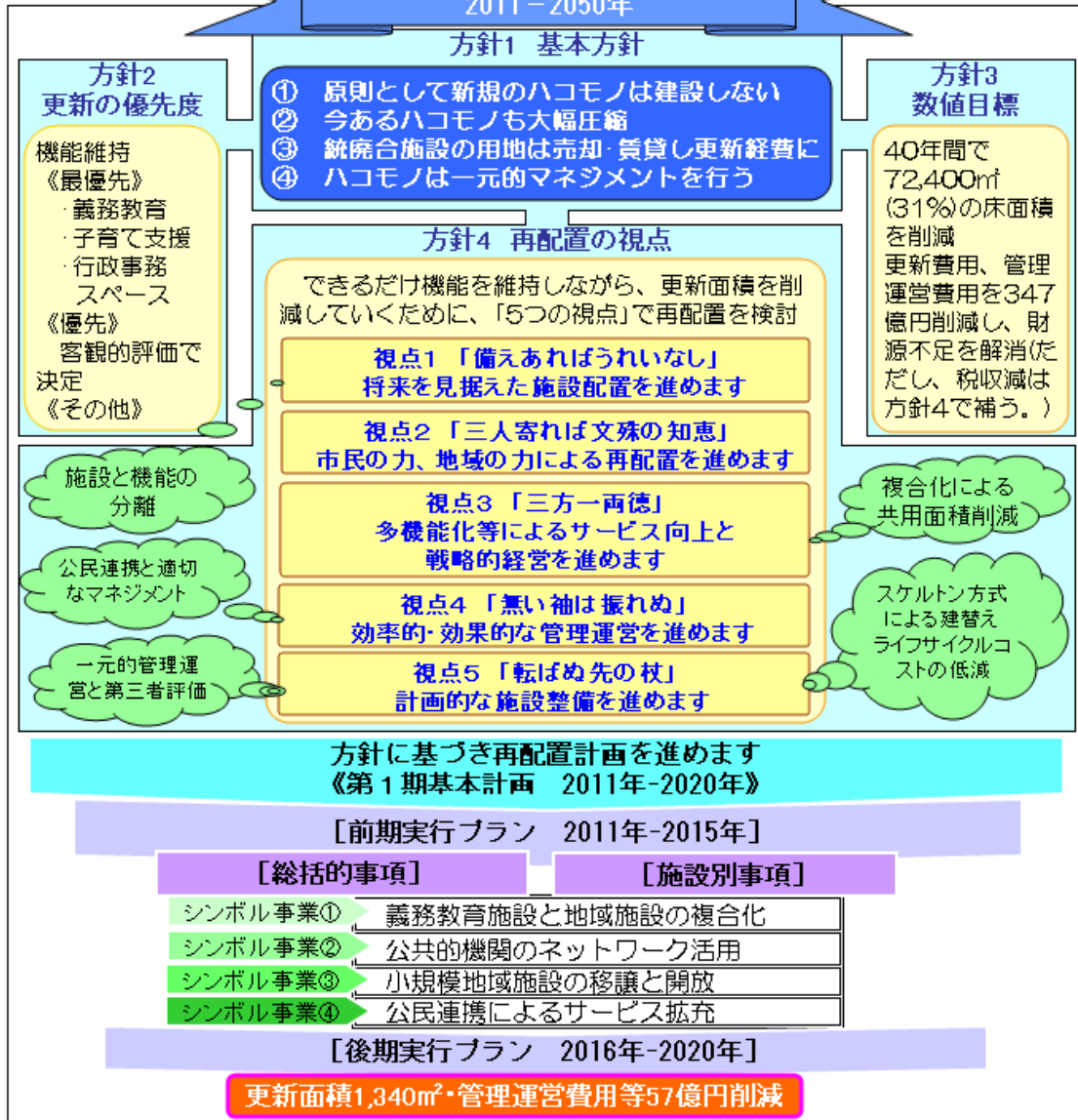
どうやって「公共施設の再配置」を進めるのか

公共施設の総量維持は不可能です！
 だからといって多くの機能がなくなってもいい訳ではない
 将来にわたり必要となるサービスをできる限り維持しなければならない



これらの課題を解決しながら再配置を進めるために
 4つの方針を立てました

第1ステージの方針 2011-2050年



第2ステージ(2021年-2030年)へ

計画を実現し、持続可能な施設サービスと安心・安全な暮らしを将来の市民にも

秦野市の一日・市民の暮らし

 <p>人口密度(21.10.1) 1k㎡当たり1,643人</p>	 <p>世帯数(21.10.1) 1世帯当たり2.45人</p>	 <p>出生 1日に3.48人</p>	 <p>死亡 1日に3.26人</p>
 <p>転入 1日に18.55人</p>	 <p>転出 1日に17.69人</p>	 <p>結婚 1日に2.22件</p>	 <p>離婚 1日に0.77件</p>
 <p>鉄道乗降人員 1日に124,399人</p>	 <p>バス輸送人員 1日に26,812人</p>	 <p>ごみ排出量 1日に143t</p>	 <p>市職員 市民151人に1人</p>
 <p>犯罪 1日に4.62件</p>	 <p>救急出動 1日に17.18件</p>	 <p>火災 6.52日に1件</p>	 <p>交通事故 1日に1.95件</p>
 <p>図書貸出数 1日に1,520冊</p>	 <p>市予算(一般会計当初) 市民1人当たり 239,702円</p>	 <p>市民税 市民1人当たり 158,283円</p>	 <p>乗用車 1世帯当たり0.81台</p>

(平成21(2009)年度版統計はだのより抜粋)